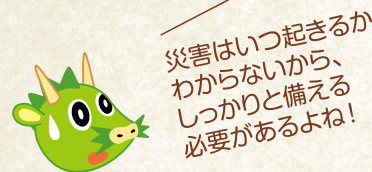


今後私たちが直面する可能性がある
大規模な地震災害について知っておきましょう。

さいたま市内全域で最大震度6~7!

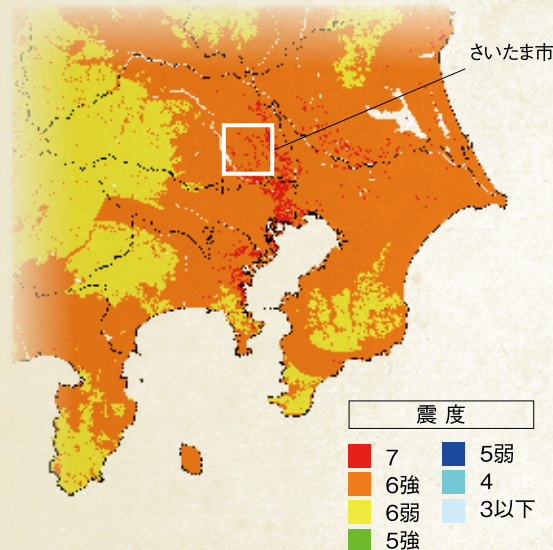
これから30年以内に発生する可能性の高い、首都直下地震。右の表からもわかるように、平成25年12月に内閣府の中央防災会議が発表したデータによると、市内の各区では6弱から7の揺れが想定されています。人的被害や建物倒壊、避難者数増加や火災発生、ライフラインの機能障害など、大規模な被害の可能性があります。



■首都直下M7クラスの地震による震度分布を重ねた震度分布図*2 *3

■市内の最大震度*3

市町村名	M7クラス重ね合わせ震度	都心南部直下地震の震度
さいたま市西区	7	6強
さいたま市北区	6強	6弱
さいたま市大宮区	7	6弱
さいたま市見沼区	7	6強
さいたま市中央区	7	6強
さいたま市桜区	7	6強
さいたま市浦和区	6強	6強
さいたま市南区	7	6強
さいたま市緑区	7	6強
さいたま市岩槻区	7	6強



震度階級	人の体感・行動	屋内の状況	屋外の状況
6弱	立っていることが困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
7		固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。

出典:平成21年3月「気象庁震度階級関連解説表」

*2 地殻内に一律Mw6.8とフィリピン海プレート内一律にMw7.3の震源を想定した震度分布を重ねたもの

*3 出典元:首都直下のM7クラスの地震及び相模トラフ沿いのM8クラスの地震等の震源断層モデルと震度分布・津波高等に関する報告書および追加資料

地震に備えてみんなができることは何だろうか?

これまで、さいたま市で起こるかもしれない大規模な地震に対して、漠然とした不安感を抱いている方もいらっしゃると思います。しかし、国が発表した地震の被害想定を知り、驚いた方も多いのではないのでしょうか。これらの想定に対しては、過大過小評価することなく、正しく認識して向き合うことが必要です。それでは、このような地震に備えて私たちができることは何なのでしょう。次のページでは私たちができる「備え」について考えていきましょう。

予想される地震災害を正しく認識して、きちんと「その日」に備えよう

正しく恐れて きちんと備える

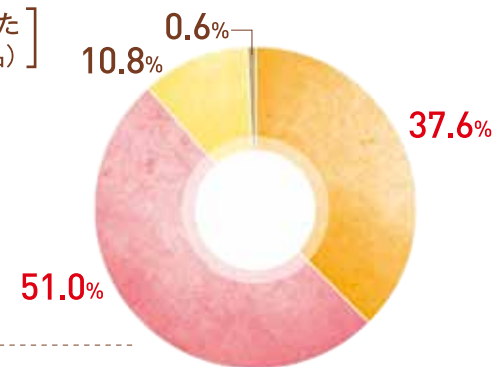
日本を揺るがした大震災から数年が経ちました。そして昨今、各地で新たな大震災が起こる可能性が発表されています。いつどこで起こるかわからない地震災害に対して、いかに被害を小さくし、大切ないのちを守っていくのか。

そこで今回は、「正しく恐れて、きちんと備える」をテーマに、私たちはどのような取り組みができるのか考えていきたいと思っています。

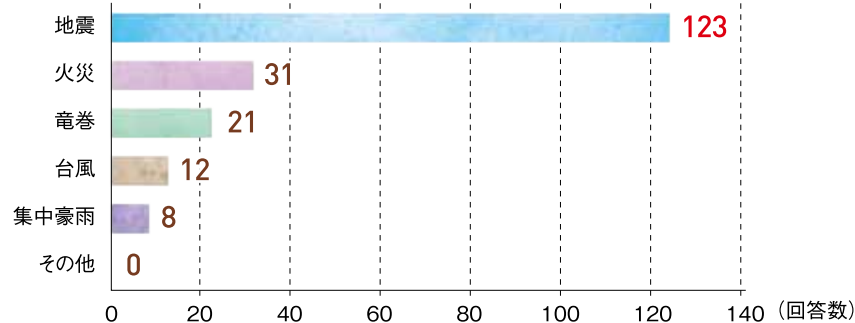
【平成25年度 区民まつりで実施したアンケート結果 (回答者数 157名)】

■災害に対する不安は?

- とて不安を感じる
- やや不安を感じる
- 不安はあまり感じていない
- わからない



■不安を感じる災害は? (複数回答可)



約90%が不安を感じている!
さいたま市民の災害に対する意識は

市民の皆さんを対象にしたアンケート結果を見てみると、約90%の皆さんが災害に対して不安を感じていることがわかります。中でも、地震に対する不安感が最も大きいようです。

* 災害対策に対する市民の皆さんの声

- 自分のいのちは自分で守る。行政には限界があるといつことを住民は知る必要があると思います。 [見沼区 男性]
- 市が防災訓練等主催して地域をつなげるようにしてほしい。地域の結びつきがないと災害後の活動がうまく進まないと思う。 [浦和区 女性]
- 災害について、一番必要なことは住民同士の関わりだと思つ。市は住民同士が顔を合わせる機会を増やすことが大切だと思つ。 [岩槻区 女性]
- 個人の備えでは限界があり不安。災害があったときに市はどのようなことをしてくれるのか、用意があるのか知りたい。 [浦和区 女性]
- 災害が起きた際のシミュレーションを具体的にを見せてもらえるとありがたい。頭の中にイメージできることが大事。 [浦和区 男性]

*区民まつりで実施したアンケート及び、本誌の読者モニターを対象にしたアンケートの「災害に強いまちづくり」として市に望むことに対する回答です。